

～ふくしまの未来を切り拓く人づくりのための魅力ある県立高等学校を目指して～ 県立高等学校改革前期実施計画（2019～2023年度）の概要

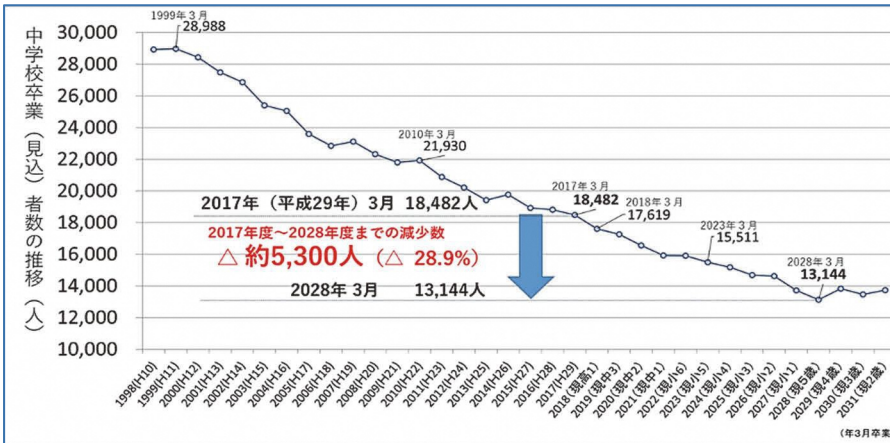
2019年2月 福島県教育委員会

福島県教育委員会では、福島県学校教育審議会の答申を踏まえて、今後10年間の県立高等学校の在り方を示した県立高等学校改革基本計画を昨年5月に策定しました。それを受けて、この度、今後5年間の県立高等学校改革の具体的な方向性を示した**県立高等学校改革前期実施計画**を策定しました。

○ 計画策定の背景

1 少子化の進行 → 2017年3月の中学校卒業者に比べて、2028年3月には約5,300人減少

図1 2028年3月までの中学校卒業（見込）者数の推移



出典・2017年(平成29年)までは福島県企画調整部統計課編各年度の「学校基本統計(学校基本調査報告書)」から作成。
・2018年(平成30年)3月～2026年3月までは同調査における各学年の在籍者数をもとに作成。
・2027年3月以降は同課提供「福島県の推計人口」(2017年4月1日現在)の各年齢別のデータをもとに作成。

・2017年度から2028年度の間には県立高校全体で1学年当たり104学級程度の削減が必要です。(図1)

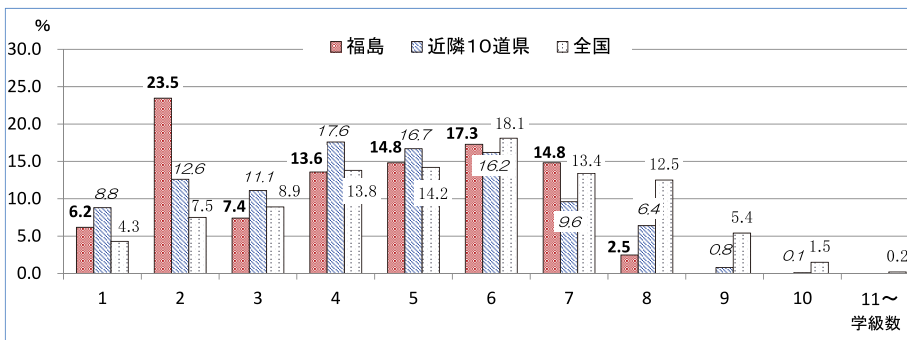
・既に、2018年度に15学級削減しており、今後、さらに89学級程度の削減が必要で、これは、1学年当たり4学級規模の学校、約22校の減に相当します。

<参考> 本県の小・中学校数の状況
(H20) → (H30)

小学校	512校	→	436校	▲76校
中学校	238校	→	218校	▲20校

2 県立高等学校の小規模校化 → 1学年3学級以下の学校が37.1%（全国平均20.7%）

図2 1学年当たりの学級数で見た学校規模の比較（福島県・近隣10道県・全国）



出典・「平成30年度全国公立高等学校第1学年定員等状況」(富山県教育委員会調べ)をもとに作成。
分校を含む2018年度(平成30年度)都道府県立高等学校全日制課程の募集定員。
近隣10道県は、北海道、本県を除く東北5県、茨城県、栃木県、群馬県、新潟県。

・東日本大震災の影響から、これまでは基本的に学校数を維持したままで、学級数を減じてきました。
・その結果、高校の小規模化が進み、1学年3学級以下の小規模校は、全国平均に比べて高い割合になっており、特に、1学年当たり2学級規模の学校は23.5%と、全国平均7.5%に比べて非常に高い割合となっています。(図2)

3 本県の高等学校教育を取り巻く様々な動き → 学習指導要領の改訂や高大接続改革、東日本大震災・原子力災害からの復興・再生など

○ 県立高等学校改革計画のスケジュール

県立高等学校改革基本計画（2019年度～2028年度）2018年（平成30年）5月18日策定

県立高等学校改革前期実施計画
2019年度～2023年度（今回策定）

県立高等学校改革後期実施計画
2024年度～2028年度